

PET 画像の情報を如何にして役立てるか？

神戸大学大学院医学系研究科 外科系講座
篠山 隆司

グリオーマ診療においてMRIは診断の中心的役割を担う一方、腫瘍の生物学的悪性度や浸潤範囲の評価には限界がある。PETは代謝やアミノ酸輸送活性などの機能情報を可視化できるが、その情報をどのように治療方針へ結び付けるかが重要な課題である。

本講演では、「PET画像情報をいかにして役立てるか」をテーマに、グリオーマ診療におけるPETの実践的な活用法を考察する。術前評価における生検ターゲットの選択、手術アプローチや切除範囲の設定など、治療戦略への応用を中心に解説する。また、造影MRI、FLAIR、灌流MRI、拡散MRIなど他モダリティとの比較を通じて、それぞれの役割と使い分けについて整理する。

さらに、造影MRI陰性例やMolecular Glioblastoma診断への応用可能性、ならびにFLAIR高信号域に対するFLAIRectomy・supratotal resection戦略への貢献について議論する。一方で、定量評価の標準化や解釈の再現性、施設間差など、臨床普及に向けた課題も少なくない。

PETが最も価値を発揮する臨床シナリオとは何か、また分子・遺伝学的情報とどのように統合すべきかを考察し、保険診療における運用上の課題点も含め、グリオーマ診療におけるPETの将来像について参加者と議論したい。

略 歴

1994年 神戸大学医学部 卒業	2005年 神戸大学医学部附属病院 助手
神戸大学医学部附属病院 研修医	2010年 神戸大学医学部附属病院 講師
1995年 公立豊岡病院 研修医	2020年 神戸大学大学院医学系研究科
兵庫県立成人病センター レジデント	脳神経外科学分野 教授
1996年 高砂市民病院 医員	2024年 神戸大学医学部附属病院
1998年 三田市民病院 医員	てんかんセンター長
1999年 神戸大学大学院 脳神経外科学分野	2025年 神戸大学医学部附属病院 病院長補佐
2003年 神戸大学医学部附属病院 医員	

現在に至る